
姉弟
果実
成人向



この本をお手に取って頂き　有難うございます。「舞 HIME」鴇羽舞衣本です。今回のお話は　風華学園に来る直前の出来事のつもりで描いてます。では　お楽しみ頂ければ幸いです。

バルコ長嶋


こら
巧во


100ッ!!
もうダメー
ざぱ
あっ
よしー
エラいよ沙夜!
はーはー
じゃあ今日は
久しぶりに一緒だし
ちゃぽ…
ざぱあっ
テッテー的に
洗ってあげるわ!
ポタポタ


ゴシ
ゴシ
ゴシ
髪も洗わないとダメかなぁ
んっ
あっ
あちゃー もう か―
ピョコ
た だって 久しぶりだったから



もじ…
お姉ちゃん…
ねぇ……
最近してなかった
からね
ちゅくっ
びくっ
アンタはまた
あうっ
ヌル
ヌル
ちゅくっ
分かってるよ
ス…
びくっ
ちゅくっ
自分で出来ないから
ね
う
びく



こんなになるまでカマンして
う…だって…
ちゅく
ちゅく
あっ
ちゅっ
だって
お姉ちゃんがいいんだもの あっ！
ちゅく
バカねっ
巧海…！あんたってば♡
ひゃあッ


あほぉ
ちゅくっ
ちゅくっ
ダメッ
もうバカァ？
ちゅくっ
イキそう？
イクの？
イクっ
イクよぉっ
ちゅくっ


ビビッ
ボロロッ
あぁっーあっー
一体どれだけ溜まってたのよぉ
わっ まだ出てるー
はー はー はー
ザ
パッ
もうすぐ卒業なんだから そろそろこれ位は自分でやって貰わなきゃ
うん
たぱ…
でもボクはまだ子供で 腰が立つ位無力で
ポタポタ



逆にお姉ちゃんを困らせるような事しか出来なくて
ボクがいなければきっとお姉ちゃんは今よりずっと嫌な目に遭わなくて済むんだ…
た…巧真っ!
あ…気がついた



!
がばっ
大丈夫？
お風呂場でイキナリ
たおれちゃって…
ゴメンね
コレ演技
だったんだ
エ？
だってお姉ちゃんも
ウソついてるよね？
タバコの臭いやボディソープの臭い
―最近は帰りが遅かったり
お風呂に独りではいったり―
何か色々ムリして
お金貯めようと
してるでしょ？


バーカ
ムリなんかじゃ
好きでやってるのよっ
ちょっとエッチな事して
カラオケも行けるし
お金だって沢山もらってさ
楽しくやってるの！
巧海の為に とか
思いつめて頑張ってる
訳じゃないよ全然
それに一実は
ちょっと
キモチいいし
そんな目をして
言うの？
お姉ちゃんの
ウソつき！
なんだ！お姉ちゃんて
ホントはエッチな事
好きなんだね
じゃあボクも遠慮する事
ないんだね！
え？


ボクもたまには
お姉ちゃんの役に
立ちたいんだ



巧海何言ってるの
やだこんな…
どうして?
だって
知らないオジサンと
しちゃう位好きなのに
ボクじゃダメ　なの?
そっか
さっきのじゃ
足りなかったんだね…



お姉ちゃん
ぱしっ
手じゃなくて
いつもオジサン達にしてるのと同じでいいよ
ぷち
ぷち
同じ—
ぶるんっ
たぷ…



つわっ うそ
すごいや
ムネが大きいと
こんな事も出来るんだ！
たぷんっ
はぁ
はぁ
くうっ
たぷっ
たぷっ
ちゃぽ
ちゃぽ
あぁっ


ぺちゃ
お姉ちゃん スゴ これオシサン達に 教わったの?
ぺちゃ
やた♥ そんな事聞かないで
タプンッ
タプンッ


ううっ…！
あんっ…！
どう？お姉ちゃん感想は？
あ…
いいよ巧海 さっき出した ばっかりなのに 量がいっぱい それに濃い


でもねお姉ちゃん
ボクは見たんだ
パタパタ
あれっ？こんな夜中に
シャワーなんて
ザァア・・・
ザァアア
ザァアア・・・
グス
ス・・・



お姉ちゃんの匂いと
男のアノ臭いがした
思えばそれが始まり
だったんだ
あの時とうどっちが本当?
お姉ちゃん勿論これで
終わりじゃないよね
そう…ね
そうよね巧弟


あっ
ぷちゃ
くちゃ
すごいヌルヌル
アレ？何この硬いの
つんん！
面白い！
あぁんっ
ギ…
ドキ
やぁっ
あっゴメンお姉ちゃん
そろそろちゃんと
するから　ね
はぁっ



いいよ
あ 来る
いいっ
気持ちいいっ
初めてお姉ちゃんのまんこに…！
きもち


はぁっ
ズッ
はぁっ
あっ
ゴリゴリする
—うぅー
オジサン連中は
お姉ちゃんとこんなスゴい事
やっちゃってたの？
はぁ
ズッ
ズッ
ぎしっ
ぎしっ
ぷちゅんっ
くぅっー！
ああっー！
はぁうっー！
何てズルい——
ぞくぞくんっ


あっ
巧海っそんな
動かしちゃ…あッ！
イクッ
クッ
やっダメぇっー
あっあっ
あっあっあああっ
どくっ
くっあああー！
どくんっ


すごい!
ドクンッ
ドクン
たくさんッ
ズル…
はあっ
まだ出てる
はあっ
やっぱ若いからかな?
はー
はー
また
それでも笑うの?


お姉ちゃん
はあ
はあ
ボクまた足りないよ
もっもうダメ
身体に障るわ
大丈夫
今日はとっても
調子が良いんだ
こんなの
久しぶりだよ
だから今度は
ぱあ
あっ
やっ
ダメそこは
あれ？そうなの？


普通に挿入るけど
ひゃんっ!
何でダメなの？
やぁっ
そんなトコっ汚いよぉっ
そこだけはダメぇっ!
お姉ちゃんてどんなにイヤな事があっても
ボクの前ではいつも笑顔で
嫌な顔せずやって
やっと「ダメ」って言ったね


いつも本当の気持ちをくれない
だ　だって私は
ウソつきだ
ゾィ
分かってる
お姉ちゃんはそうしなければ
いけなかっただけだ
ヌル
ヌル
あぁっ
でもやっと
本音を言ってくれた
ありがとう
そしてボクは
それで幸せだと
有難うと言うべきだった


ズプズプッ
ひゃんッ♥
そうだっ
コッチも栓がないと
ダメだね
え!?
ふぅんッ
あっギュッて
締まった♥
だめぇっ
何か変だよぉっ
ゼロッ
アレ？
腹圧で出て来ちゃうよぉ
ズプ
やあぁんっ♥
ズプ


ひっ
入り口がキュってなって
中はトロトロだぁっ
ひっ
? この
ゴリゴリは?
あっ♥
あぉっ
ズッ
ズッ
中で
あたってるのぉっ
ああ♥
中でぇっ
ゴッ
ゴッ


くーっっ
いくうっ
ゴッ
いくうううっ
ゴリュ
ゴッ
いくうっ
ドクッ
うわっ
わあああっ
搾られるうっ！
お姉ちゃんにっ
こんな
いっぱい　っ


びくんっ
は
はー
は
びくんっ
びくんっ


巧海
また黙っていようと
思っていたけど
例の奨学金の話
申請した学校でね
二人とも最終審査に
残った所があるの


ほぼ決定だけど
形だけ作文提出して
入学したら二人とも
寮に入るから
そしたら
少し距離を置くことに
なる　ね
その方が私たち


これから大変だね
お家売って手続きして引っ越しして
二人でやらなきゃいけない事いっぱい
いや お姉ちゃんに助けて貰わなきゃいけない って言うべきか
ごめん
ありがとう

新しい学校
新しい土地

そこへ行けばきっと
上手くいくんじゃないかって

そう思ってボクらはあのフェリーに乗ったんだ